



<民間 行政 一体モデル 森林技術者の若返り>

久しぶりに鳥取へ行ってきました。3度目の訪問です。鳥取県は全国で一番人口の少ない県として有名となり現在54万人ほどで岐阜市の3割増しほどですが、今回いくつかのサプライズを感じました。まず岐阜県との比較から

	岐阜県	鳥取県	(%)
人口	195万	54万	(28%)
人工林資源 (7歳級以上)	1.03億m ³	0.43億	(42%)
森林率 (ランキング)	81% (2位)	74% (31位)	
生産量 (バイオマス別)	36万m ³	25.4万m ³	(71%)

山陰の小さな県で、取り立てて大きな産業が少ない県で人口は岐阜県の30%以下ですが、木材生産量は70%以上です。資源を有効に使っている県である事がデータからも伺えます。





<LVLやCLTへの先進的取り組み>

まず初めに訪問した先は(株)オロチという会社です。所在地は島根県、広島県、岡山県との県境にある日南町というところで、町の9割が山林という林業の町です。

日南町丸太消費量

	年間	126,000m ³
オロチ消費量		48,000m ³
木材市場消費量		40,000m ³
チップ工場消費量		38,000m ³

日南町においては、年間成長量 150,000m³に対して、年間消費量が126,000m³であり、成長量の84%位を消費するサステイナブルなバランスとなっています。

LVLとは、原木を合板の様にロータリーレースという機械で「かつら剥き」の様に3m/mほどの厚みで薄く切削し、それを何層も貼り合わせた製品で、お菓子でいうバームクーヘンの様な感じですが、完全なエンジニアリングウッドですが、貼り合わせることで木材強度が上がる事も実験済のようです。E60がE90位になる様ですが表示はE60としか表示できないとの事でした。杉・桧ともに生産可能です。

メリット

1本1本の強度ムラが無く筋違いなどで使われるケースが多いようです。反り・割れがほとんど発生しないので、プレカットでもロスなく使用できます。今後、柱サイズや桁サイズでも可能となり、せん断力に問題のある杉の有効利用にもつながりそうです。



次はCLTです。

CLTは12m/m 30m/mほどのラミナーを板状に接着し、それをクロスしてさらに積み上げ、接着してパネル状にした商品です。用途としては構造用のパネルだけでなく造作用のパネル、更に家具用また厚み90mmほどで非住宅用や、耐力壁などにも使えてブロック状の大型のものも生産可能となっています。

更にCLT専用のプレカット工場も見学いたしました。

倉庫や非住宅の軒やオフィスの意匠にも使えること、今後は曲面を生かした加工などもできることにより新しい空間創造も可能となってきます。

将来は非住宅物件での使用事例がどんどん増えそうです。



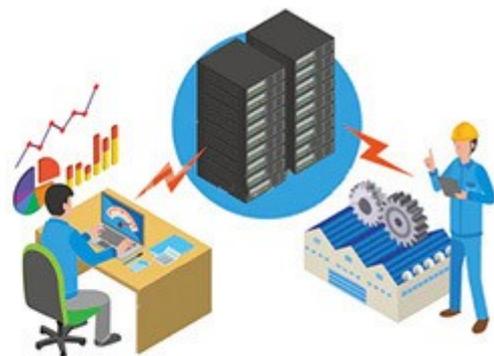
(最後は合板工場)

合板業界は寡占化が進み、大きくは国産工場4グループ位が大きなウェイトを占めています。TOPはやはり全国規模でのセイホクグループ、次に西日本の日新グループ更に北陸エリアの林ベニヤや、静岡エリアのノダ等があげられます。

今回は、鳥取の日新本社工場に訪問しました。

現在、中四国エリアと三重県で6工場が稼働しており、米子の本社工場では月間2万m³の原木をこなしておりグループでは月間6万m³に達するそうです。

年間72万m³の規模感には岐阜県の素材生産を上まわっています。中部エリアまで原木の供給ソースを広げており、岐阜県の原木も三重工場で、使用している様です。



(その規模感に圧倒、営業が生産計画)

まず規模感と省力化にビックリしました。53,000m²の敷地と省力化させたライン、そして何より感心したのは営業が生産計画を立てているとの事。ウッドショック時、我々流通段階では合板不足で大変苦労いたしました。そういった経験も踏まえ、需要と供給のバランスをコントロールする事こそ、大切でありそのスピード感が問われます。まさしくプロダクトアウトからマーケットインへの発想の転換です。歩止まりは75%位まで上がってきているとの事で製材工場より優位性が高いようです。



(特長は長尺合板)

	岐阜	鳥取
製材工場	200 → 160 (全国1位→3位)	80 → 40

鳥取の製材工場は岐阜県の1/4くらいで、製材工場の減少は岐阜よりペースが速い感じですが、合板やLVL、CLTなどの新しい需要が増えており、原木消費のプレーヤーが変化していると感じます。岐阜県では中規模合板工場が1社のみ、大型製材工場が1社、集成工場2~3社、中規模製材工場3~5社、あとは小規模製材工場であります。それ故、完成商品として柱、土台、羽柄材などが多く木造住宅向けの商品構成となっております。



(今後に向けて)

- ・大きな流れ
 - 新設住宅着工の急速な減少
80万 → 50万戸
 - 非住宅構造やオフィスなどの木質化加速
 - 脱炭素化 CO2固定化や削減
- ・今後 県産材ラミナー生産増 → 構造用集成材の生産
 - CLT、LVLの生産
 - BP材等の合わせ梁
 - 端材の有効利用 など

時流に合わせた商品構成や生産ラインの変更にもスピーディに取り組む必要を感じました。また、今回訪問したLVL生産「オロチ」の最大の株主は日南町森林組合であります。安定的な需要の下で素材生産も増え、特に山側で大きな変化があり山林技術者に若い方がどんどん増えており、活性化が進んでいる事です。

岐阜も他県に学ぶことが多いと感じました。

ぎふの木ネット協議会より 参加企業さまにイベントのご紹介をさせていただきます

- ・ぎふの木ネット協議会よりイベントのご案内をさせていただきます

お施主様むけ >> 10月19日(土)
大人もお子様人気のMTBのアクティビティです
案内書PDFダウンロード ⇒ [こちら](#)

工務店さま >> 10月2、3、4日
林業・木材産業の勉強会
案内書PDFダウンロード ⇒ [こちら](#)

※画像をタップするとPDFがダウンロードされます

お申込みは下記宛にメールをください
info@gifunoki.net



「工務店 & 施主候補で林業を学ぶツアー」 参加企業募集

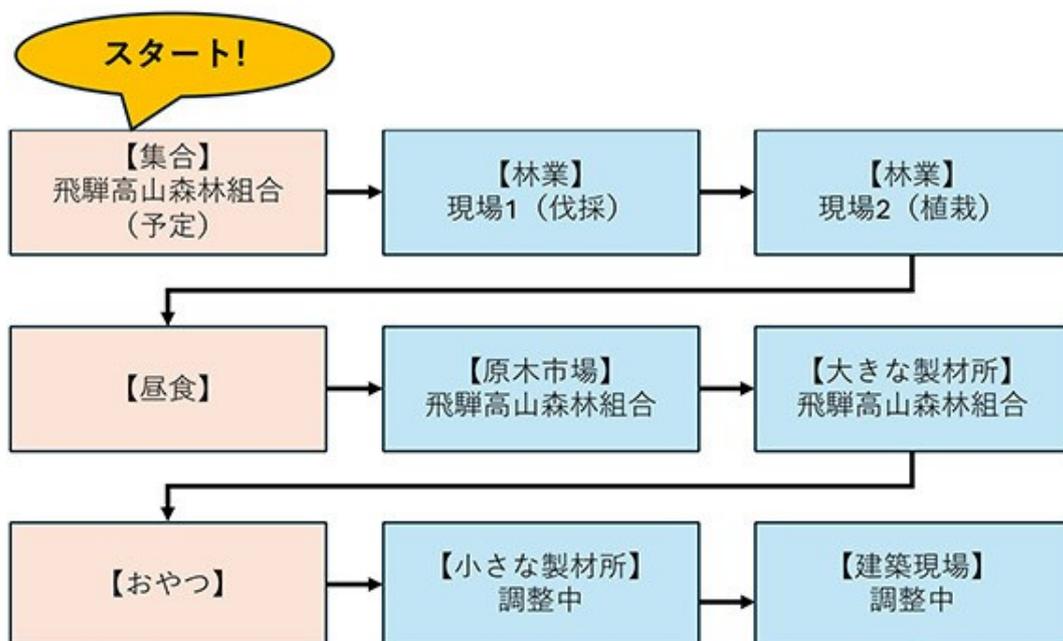
岐阜県産材で建築する住宅への理解向上とプロモーションを
目的に工務店 & 施主候補での電動マウンテンバイクでめぐる
林業を学ぶツアーを行います。

- **募集企業**：岐阜県産材で住宅を建築している工務店で
お客さんと一緒に岐阜県産材の製造現場を
見学したい方（限定2組）
- **開催日**：2024年10月19日（土）で予定（日程相談可）
※雨天延期
- **集合場所**：飛騨高山森林組合本所
〒506-0035 高山市新宮町112-17（高山西ICを出て5分）
- **ツアー内容**：プロのインストラクターの先導の電動マウンテンバイクに乗って、高山市内の林業現場、原木市場、製材所、木造建築物を見学します。林業専門家がガイドします。

【主催・問い合わせ先】ぎふの木ネット協議会

電動マウンテンバイクで巡る林業・木材産業現場行程（予定）

急坂、未舗装道路も楽々の電動マウンテンバイクでガイド付きでのんびりと林業現場、製材所などを巡ります。





「工務店向け林業・木材産業勉強会」 参加企業募集

岐阜県産材で建築される住宅の理解向上を目的に林業・木材産業の勉強会を行います。

- 募集企業：岐阜県産材の住宅を販売するにあたり、
林業・木材の知識をつけたい工務店
- 開催日：2024年10月2日（水）、3日（木）、4日（金）の
どこかで実施（今後調整）
- 実施場所：飛騨高山森林組合本所
〒506-0035 高山市新宮町112-17（高山西ICを出て5分）
※見学が必要なければ、岐阜市内で実施します。
- 内容：岐阜県産材の流通を森林・林業・木材加工の流れを学
び、工務店の営業活動に活かせる知識を身につける機
会にします。また、質問・疑問にお答えします。





【主催・問い合わせ先】ぎふの木ネット協議会

Back Number



過去のメールマガジンはこちら

NEWS



新着情報はコチラ

正しく表示されない場合は[こちら](#)

このメールは、ぎふの木ネットからのメール配信をご希望された方に送信しております。今後も引き続きメールの受信を希望される方は [こちらをクリック](#) してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから [配信停止手続きが行えます。](#)

本メールは yamagataya_s_info@ymg-s.co.jp より tomoya_yasue@ymg-s.co.jp 宛に送信しております。

みやまち ヤマガタヤ産業内, 羽島郡岐南町, 岐阜県 501-6019, Japan

✓**認証** 購読停止 | [配信停止](#) | [登録情報更新](#)

